

シンポジウム 「DX時代の情報管理と人材育成：ライブラリーサイエンス専攻の挑戦」

上山, あゆみ
九州大学大学院人文科学研究院： 研究院長

岡崎, 敦
九州大学大学院人文科学研究院

石田, 栄美
九州大学大学院統合新領域学府ライブラリーサイエンス専攻

富浦, 洋一
九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門

他

<https://doi.org/10.15017/6757889>

出版情報：2023-01-11. Department of Library Science, Graduate School of Integrated Frontier Sciences, Kyushu University

バージョン：

権利関係：



九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻



九州大学文学部



KYUSHU UNIVERSITY 100th 2011
知の世紀を拓く

シンポジウム「DX時代の情報管理と人材養成 —ライブラリーサイエンス専攻の挑戦—」

2023年1月11日(水)

九州大学伊都キャンパス イースト1号館C-203会議室



九州大学



九州大学大学院 統合新領域学府
ライブラリーサイエンス専攻

シンポジウム「DX時代の情報管理と人材養成 —ライブラリーサイエンス専攻の挑戦—」

趣旨説明

人文科学研究院、ライブラリーサイエンス専攻
岡崎 敦

2023年1月11日@九州大学伊都キャンパス
イースト1号館C-203会議室



九州大学

デジタル(DX)時代の資料や情報の適切な管理と提供

- 人文科学とライブラリーサイエンス専攻の連携
 - 人文科学と情報管理学との密接な関係
 - デジタル・ヒューマニティーズと情報管理
- データ・情報管理専門職養成とキャリア形成
 - 社会の様々な現場で役立つ専門知としての情報管理
 - 産官学連携によるキャリア形成と教育プログラム設計

ライブラリーサイエンス専攻の概要

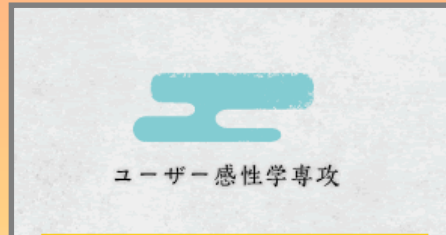
平成21年度設置



大学院 統合新領域学府

学府のコンセプト

出口(ユーザーの視点)から
科学を再構築する。



- 修士課程 (平成23年4月)
- 博士後期課程 (平成25年4月)

- 学 府 名: 大学院統合新領域学府
Graduate School of Integrated Frontier Sciences
- 専 攻 名: ライブラリーサイエンス専攻
Department of Library Science
- 学 位 名: 修士(ライブラリーサイエンス)
Master of Library Science
博士(ライブラリーサイエンス)
Doctor of Library Science
- 入学定員: 修士課程 10名
博士後期課程 3名
- 開設時期:
修士課程 平成23(2011)年4月
博士後期課程 平成25(2013)年4月
- 施設整備: 九州大学 伊都キャンパス イーストゾーン内



ユーザー視点に立つサービスと、データ管理専門職の必要性

■ユーザー視点に立つ情報管理とサービス

- マス・コミュニケーション時代の垂直的管理から、インターネットとパソコン／スマホによる「ユーザー」の相互利活用へ
- 加工された分類・構造化データに加え、構造化されていない大量のデータ自体を、ユーザー自身が能動的に活用する時代の到来

■データ管理専門職の必要性

- 多様で大量のデータ活用のためには、データ解析だけでなく、情報の性格を見極め、適切に整理・維持・提供できる人材が必要
- データの内容に関わりなく、情報の生成、利用、管理のすべてのステージで、その真正性や信頼性を保証する専門職

Society5.0時代のデジタルデータ管理における、 多面的アプローチの必要性

- ICT環境におけるデジタル(ビッグ)データの利活用
 - 大規模デジタルデータ管理における多面的アプローチの必要性
 - 情報技術だけでなく、リスク管理、人権保護、法令、データ継承、政治、経済、社会動向など、多様な観点からの検討が必要
- データの共有によるイノベーション創出の基盤
 - データのオープン化とそれらを用いた新たなイノベーション創出は、官・民、学術問わず世界的な課題
 - 保存や基盤整備だけでなく、データの流通整備や異なるデータのリンクなどによって、社会のさまざまな課題解決に貢献

情報ガバナンス：内部統制とオープンデータとの両立

■ オープンデータと社会

- **政治や組織運営、社会**の透明性と信頼性、効率化；経済成長・イノベーション、雇用創出
- **公共部門のオープンデータ開放・利活用**：官民データの共有、市民による利活用 ～民主主義の進化

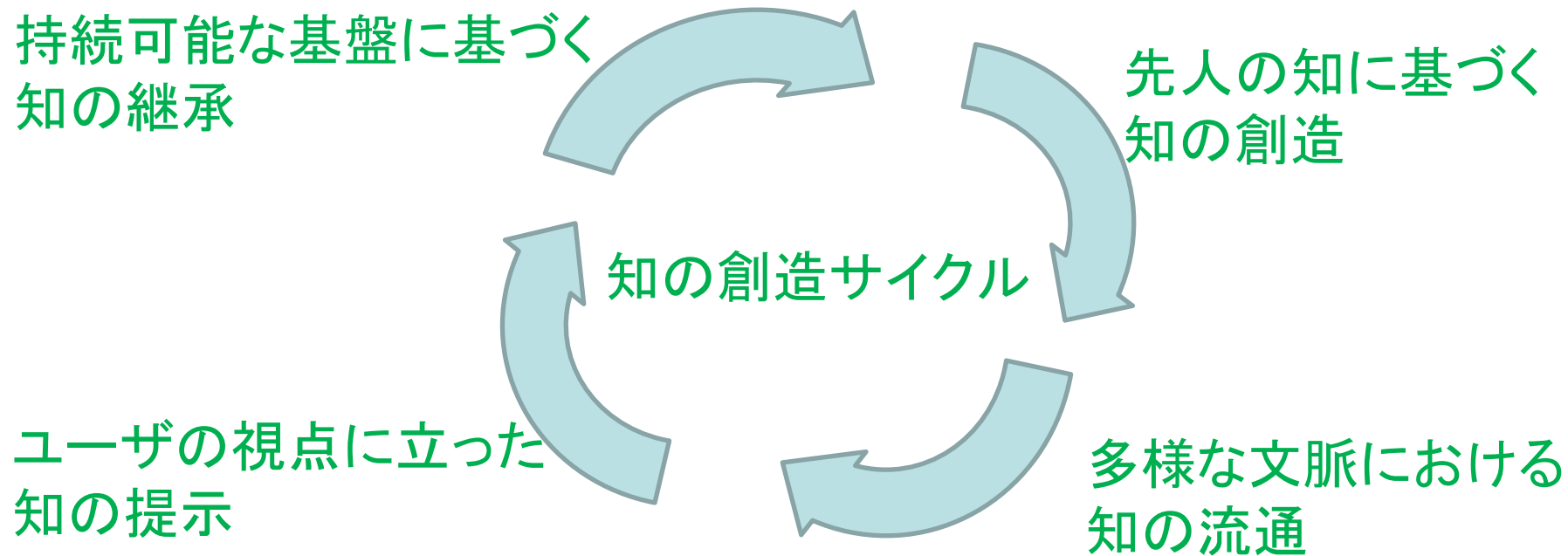
■ 情報ガバナンス

- **組織内の情報を監督、規律し、適切に提供、利活用**するためのルールや態勢を整えること。責任ある組織運営、社会秩序の維持基盤としての情報管理
- **情報共有社会の中でのリスク管理、人権保護**問題

大学における情報管理とオープンデータ

- 科学の場でのオープンデータ、オープンサイエンス
 - 「集合知」のインフラとしてのオープンデータ: 情報コモンズ
 - 研究不正問題と研究証跡管理: 研究の信頼性確保
 - 「学問」の垣根の下降化: 「誰でも科学者」 ~ 専門家とは誰か
- 組織情報の公開、共有の「主体」としての「大学」
 - 大学運営情報の公開: 「オープン・ガバメント」
 - 大学収集・構築情報の公開: 教育情報、研究基盤情報
 - 産官学連携の要としての大学

ライブラリーサイエンスとは？



- ライブラリーサイエンス＝知の創造サイクルを維持・発展させるための科学的方法論
- 狭い意味の「図書館」ではなく、「知の創造と継承を支える基盤」

Xプログラムとライブラリーサイエンス専攻

■ 人文情報学と情報管理

- 個別領域の研究、教育支援：**大量のデータ分析**
- デジタル・アーカイブ構築：**信頼できる資料情報の管理提供**。プロセス管理、第三者による発見と検索、定義とメタデータ、自動制御、マイグレーションと長期保存など
- **理論と制度実装**：レコード・コンティニューアム理論、法的行政的基盤、社会実装、維持管理など
- **社会との関係（公共性、ELSI）**：情報は誰のものか、情報倫理、社会的合意形成、市民参加型管理、科学技術社会論（STS）

Xプログラムとライブラリーサイエンス専攻

■ データ管理専門領域の開拓，専門職キャリア形成

■ 情報管理の社会実装：

アカデミア以外の専門職キャリアの開拓。公行政、民間企業；情報管理機関・産業、コンテンツ産業、法関係など

■ 管理職としての高度専門職：

複雑・複合的な社会の現場の課題に、「総合的」観点から（学際的）、政策決定、運用の責任を担える人材養成。同時に、学界の最先端に通じるための高度な専門性 ～大学院教育の必要性

人文学と現代の情報管理

■ データ分析

- **古典的関心**: 文体語彙研究、影響関係; 人口動態、経済変動、プロソポグラフィー
- **大規模コーパス構築**: 構造化、標準化データにもとづく解析

■ 正しいテキストとは?: 文献学の伝統と革新

- 究極のオリジナルから、**多様な「版」**へ
- テキストの**背後**: 多様な作成、利活用、廃棄プロセス; 関係者
- テキストの**コンテキスト**: プレ、パラ、メタ; コピペ、引用、参照
- テキスト**「刊行」**: 研究者の「版」ではなく、**注釈 = メタデータの集積**

シンポジウムの進行

■ ライブラリーサイエンス専攻教員による報告

■ 石田栄美「オープンサイエンスにおける情報管理」

データ駆動イノベーション推進本部; 図書館情報学

■ 富浦洋一「研究データ管理: 研究者と大学の役割」

システム情報学研究院、データ駆動イノベーション推進本部; 情報学

■ 大賀 哲「情報ガバナンスとEBPMの射程」

法学研究院; 国際政治学

■ 渡邊由紀子「情報管理専門職の養成とキャリア形成」

附属図書館; 図書館情報学

■ パネルディスカッション